

銚子電気鉄道

“銚子電気鉄道” 千葉県銚子市を走る鉄道です。清瀬の市民である皆さんならご存知ですね。清瀬市銘菓“きよせ棒”は清瀬市と銚子電気鉄道とのコラボで開発されたお菓子です。清瀬産のニンジンとゴボウを使用しています。

昨日、教師として敬愛する先輩から食事に誘われました。会話の中で、その“銚子電鉄”が話題に上がったのです。それは、先輩が参加した講演の講師が、銚子電気鉄道の社長竹本勝紀さんだったからです。

銚子電鉄と言えば、鉄道の経営が赤字続きで、ぬれせんべいの販売をはじめとするユニークなアイデアで 超し んどい状況を打開してきた会社です。他にも、経営が「まずい」に由来したスナック菓子“まずい棒”や経営が「サバイバル」に由来した鯖を具にしたキーマカレー「鯖威張るカレー」など新たな食品を開発し販売しています。海食崖を誇る犬吠埼付近が終点であることから、路線名を「犬吠崖っぷちライン」とし、経営難を逆手に取った戦略を展開しています。他にも「お化け屋敷電車」や「イルミネーション電車」駅名愛称のネーミングライツ、映画を作成するなど、日本一のエンタメ鉄道を目指す、他に類を見ない鉄道会社です。

その中心となった竹本さんは、もともと銚子電鉄の顧問税理士で、2005 年に社長に就任しました。当時の社長が会社の資金を横領し、国や県からの補助金が凍結され、経営が非常に苦しくなった時にスタート切りました。「一度失った鉄路は二度と戻っては来ない。我々を必要とする人たちがいる限り、鉄道の灯を消してはならない。」と日々奮闘する社長の言葉には重みがあったそうです。経営にあたっての講話でしたが、生きる上でのヒントになる話ばかりです。

「絶対にあきらめないこと。どこかに突破口があると信じ、その突破口を探すため、行動すること。」
そのために「risk-taker(リスクテイカー 直訳では危険を冒す人ですが、危険に打ち勝つ自信をもって臨む人、不確実な事柄を前にしても挑戦する人、と解釈するようです。)として覚悟すること。」
「どんな問題も必ず解決できる。解決できるからこそ自分の身に起きたのである。」

リスクテイカーとしての覚悟をするという響き、問題を解決するには覚悟が必要であると改めて考えさせられています。



校内は不確実な新しいことに挑戦します。3年生の修学旅行は今年から新たな場所、北陸へ向かいます。右の



写真は実行委員会作成のスローガンと、I 組作成の福井恐竜博物館ガイドです。13日放課後には、学校支援本部の皆さんのお力により、漢字検定を行うことができました。不確実な自分への挑戦です。朝には、来週から始まるセントラルスポーツでの水泳授業のために、バスの班長に対し、任務内容を説明しました。水泳の授業は、泳力を高める未来への挑戦ですが、夏に向かい川や海のレジャーにて身を守る力をつける意味もあります。リスクは回避しなければなりません。



ひるまず覚悟を決めて挑戦をする姿勢を学びました。そうはいっても、できる限り危険を排除しながら突き進むことができれば、さらに上を目指せます。リスク低下 が必要です！